

稲荷神社と祭り囃子

20年 6月 吉日
恩多町 大袋祭囃子保存会

1 稲荷神社についての由緒 (いつ頃 何の為に 祀られたか)

田舎名

昭和9年の神社の記録によると、〔由緒不祥なれど、古文書によると凡そ185年前の寛延年間(1748年~1751年)に当地の名主が、京都伏見稲荷の御神霊をお招きし、当村の鎮守様に祀られたと記録されています。185年+71年、凡そ256年前のことで、当時は小さな村社稲荷神社として、村人達の心と生活の拠り所として、崇められて居た事でしょう。

明治2年の記録で当地は〔武州多摩郡大袋村〕明治38年には〔東京府武蔵國多摩郡東村山大袋字丑久保〕。昭和9年には〔東京府北多摩郡東村山村大袋丑久保〕と時代と共に恩多町の名称も変化しながら、現在のような大きな町になりましたが、稲荷神社が無資格社から正式な神社として承認されたのは、昭和9年頃の事で、当時の氏子数は200戸と記されています。

昔の人には力があつた。当時の人達の職業は殆どが農業、お百姓でしたが、篤志家や財産家が居たとはいえ、200戸の氏子達で、いま皆さんの見て居るこの稲荷神社を、昭和9年に建替えたのです。今建てるといくら位掛かるのかしら。地域にとっては重要な文化財です。

御祭神は、宇迦之御魂命(うかのみたまのみこと) 人々の生命を養い育てる根源の力。

宇迦(うか) とは …… 清浄あるいは立派な食物のこと。
稲(いな) とは …… 清浄な食物の根本は稲であり、人の生命を養い育てる。
魂(みたま) とは …… 全てのものを生かす力。
五穀豊穰 商売繁盛 幸福の守護 不浄 穢れを払い、私達を生かして下さる神。

2 お祭りとお囃子のあらし

(元は新嘗祭)

* 稲荷神社には、元旦祭 初午祭 春の例大祭 秋の例祭 勤労感謝祭の5つのお祭りがあります。いまでは人々の生活環境や考え方が大きく変わってしまいましたが、娯楽の少なかった昔の人達にとっては、御神楽やお囃子はとても楽しみで、仕事の区切りでもあり、また土地の人達を結びつける良い機会でもありました。

* お祭りといえばお囃子がつきものです。関東地方の祭囃子の源流は、鎌倉時代に始まるといわれ、江戸時代になって祭りの出し物として各地に拡がり、江戸時代の末期に東村山にも伝えられました。地域によって色々な流派が定着しています。神田囃子、葛西囃子、重松囃子等沢山の流派がありますが、現在東村山市の各神社には全て“重松流”(じゅうしょうりゅう)です。明治の初期に、所沢の古谷重松という人が、種種の囃子を基に独自に作曲したのですが、威勢が良く賑やかで、現代感覚にも合ったものです。大袋では以前、御神楽にもマッチした曲想のある、鈴木流でしたが、昭和48年頃より徐々に重松流に変わって現在に至って居り、口伝と努力で身体が覚えたものを変えるのは、大変だった様です。曲は全部で8曲あり、踊りが付いています。時と場所とイベントの目的に合わせて演奏します。

恩多町の祭囃子保存会メンバーは現在大人19名 子供12名 全員で約30名位です。先輩達が受け継いで守ってきたこの伝統芸能を、永く保存していきたいと、毎週火曜日と金曜日に神社の社務所で練習をしています。神社のお祭りの他、市や地域のイベントを合わせると年間で20回位の出番があります。観るよりも参加する方が楽しいですよ! 皆さんも参加してみませんか。

お囃子についての 参 考

皆さんが学校で勉強して居る洋楽と違って、お囃子には楽譜がありません。曲想は おおむね短調ですが、口伝(言葉で表現)の符丁と先達の指導で練習します。

曲 目 は 仁羽(にんば) 地囃子(じばやし) ねんねこ(子守歌) 鎌倉(かまくら) 師調目(しっちょうめ) 三番叟(さんばそう) 宮昇殿(みやしょうでん) 國固め(くにがため) の8曲です

用 具 は 大環(おおかん) 締め太鼓(しらべ) 笛(しのぶえ) 鉦(しょう) (楽器) 拍子木 各種お面 各種踊りの衣裳 ヒョトコ おかめ 山車(引き回し) 扇子 鈴 獅子 天狐 三番叟 等

* これは、小中学生の課外学習及び見学者の為に要約して作ったものです